

# 2012 年度リエゾンゼミ I の教育効果に関するアンケートの結果（報告）

FD 委員会

## I. アンケートの概要

2013 年 1 月に 1 年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学士力達成度 19 項目（キャリア形成への取り組みを含む）、意欲 2 項目より構成。655 名の回答が得られた（回答率 49.4%）。

## II. 全体の傾向

### 1. 回答者の属性と施設・設備等の利用状況

回答者の学科構成を表 1-1、属性を表 1-2 に、施設・設備等の利用状況を表 2 に示す。

学科名	度数	%
社会福祉学科	249	38.0
社会教育学科	50	7.6
福祉心理学科	66	10.1
産業福祉マネジメント学科	71	10.8
情報福祉マネジメント学科	31	4.7
子ども教育学科	114	17.4
保健看護学科	29	4.4
リハビリテーション学科	20	3.1
医療経営管理学科	24	3.7
無回答	1	0.2
総計	655	100.0

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	177	27.0
	女性	478	73.0
入試形態	A0 入試	54	8.2
	推薦入試	207	31.6
	一般入試	392	59.8
	無回答	2	0.3
居住形態	自宅	298	45.5
	自宅以外	357	54.5
部・サークルの所属	有	536	81.8
	無	109	16.6
	無回答	10	1.5
ボランティア活動	有	439	67.0
	無	214	32.7
国際交流経験	有	24	3.7
	無	629	96.0
	無回答	2	.3
アルバイト経験	有	452	69.0
	無	200	30.5
	無回答	3	.5
キャリアデザイン I の履修	有	198	30.2
	無	455	69.5
	無回答	2	.3
実学臨床教育 (総合福祉学部のみ)	有	38	10.4
	無	317	86.8
	無回答	10	2.7
副専攻の履修 (総合福祉学部、総合マ ネジメント学部のみ)	有	44	9.4
	無	374	80.1
	無回答	49	10.5

表2 利用状況						
		頻繁に	ときどき	たまに	なし	無回答
図書館	度数	127	247	234	45	2
	%	19.4	<b>37.7</b>	<b>35.7</b>	6.9	0.3
美術工芸館	度数	1	13	147	491	3
	%	0.2	2.0	22.4	<b>75.0</b>	0.5
キャリアセンター	度数	1	39	173	439	3
	%	0.2	6.0	26.4	<b>67.0</b>	0.5
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	1	29	211	409	5
	%	0.2	4.4	32.2	<b>62.4</b>	0.8
コミュニケーションタイム	度数	7	17	55	573	3
	%	1.1	2.6	8.4	<b>87.5</b>	0.5
UNPA クラスプロフィール機能	度数	93	175	202	183	2
	%	14.2	26.7	<b>30.8</b>	27.9	0.3
ピアメンター	度数	7	15	53	575	5
	%	1.1	2.3	8.1	<b>87.8</b>	0.8
Webテキスト「リエゾンゼミナビ」	度数	5	34	220	391	5
	%	0.8	5.2	33.6	<b>59.7</b>	0.8
tfuマイカルテシステム・tfu元気点検道場・tfu元気点検票かるた	度数	4	34	291	324	2
	%	0.6	5.2	<b>44.4</b>	<b>49.5</b>	0.3

※「美術工芸館」「キャリア・センター」「保健室」「Webテキスト」「マイカルテ」の利用は、「なし・たまに・ときどき（頻繁に含む）」に再分類し、後の分析に利用する。

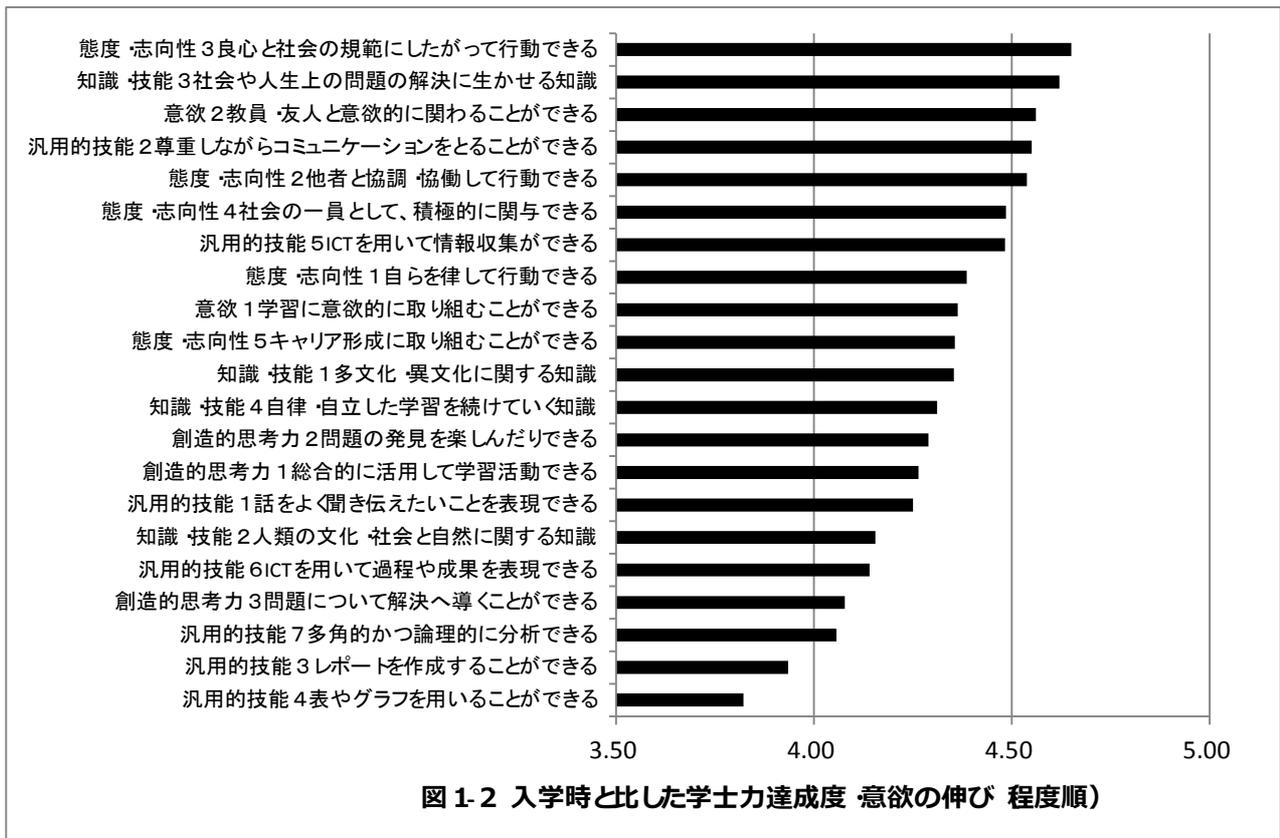
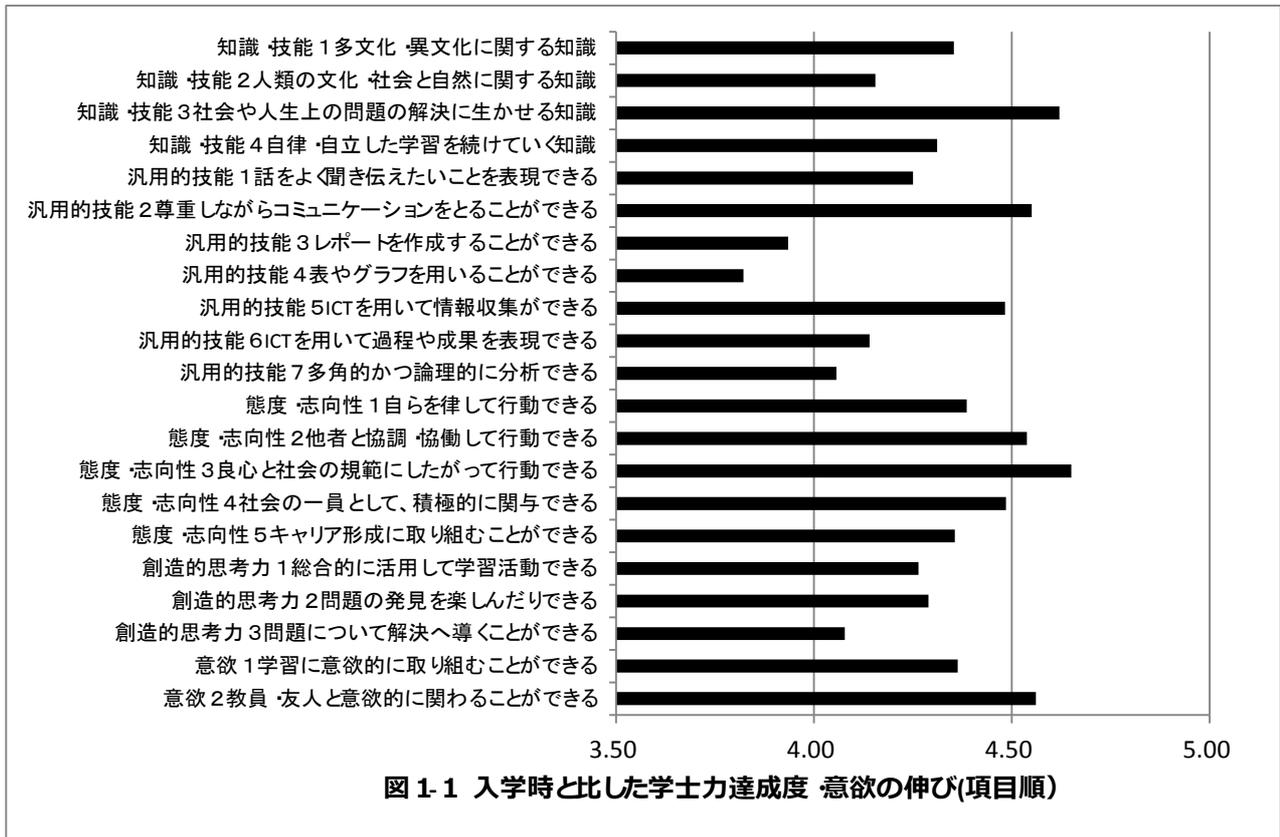
## 2. 学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度、意欲の伸びを図 1-1 に示す。達成・意欲の程度順に並べ変えたものが図 1-2 である。

学士力達成度、意欲の伸びの 21 項目の各々はいずれも平均値 3.5 以上（伸びたことを意味する）であり、リエゾンゼミ I は学士力を伸ばす教育効果があるといえる。特に、「社会・他者への配慮・コミュニケーション」に関する項目が伸びの大きい項目に含まれた。この背景には、PBL にて取り組む課題内容(社会的問題を取り上げる等)、PBL を行ううえでの集団での共同作業が効果を示したことが想定されるだろう。

他方、「論理的思考力及びレポート・資料作成」に関する項目は、伸びが見られるものの、その程度は小さかった。リエゾンゼミ I ではこれらをも高めることを目標の 1 つに含め取り組んでいるが、その学習効果は充分であるとはいえず、改善・工夫を必要とする課題である。

また、意欲に関する 2 項目(学習意欲、人間関係の意欲)は両項目とも伸びの大きい項目に含まれており、リエゾンゼミ I は大学生活への意欲の伸びに対しても効果があるといえる。



#### 4. 属性と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は、表 4 の通りであった。

性別では、女性が男性より「創造的思考力」「社会・文化に関する知識」「論理的思考力」についての低さを示した。女子学生に対してより配慮が望まれる。

居住形態では、自宅が自宅以外より、特に「態度・志向性」に関する項目を通して達成度の低さを示した。

部・サークル活動は、所属している者のほうが「対人面での意欲及び他者との協調・コミュニケーションの達成度の高さを示した。アルバイトでも同様の傾向が見られ、アルバイトしている者のほうが対人面での意欲やコミュニケーションの達成度が高く、加えて社会成員の一員であることの意識の高さが示された。学生中心で組織する集団そして学外の者と形成する集団での活動が、社会性の側面での学士力の伸びには重要と思われる。

キャリアデザイン I 及び副専攻の履修は、ICT スキルや問題解決能力に対して効果をもつことが示された。

		性別	入試形態	居住形態	部活動・サークル	ボランティア活動	国際交流	アルバイト	キャリアデザイン I	実学臨床教	副専攻
知識・技能	多文化・異文化に関する知識	男性>女性		自学以外>自宅	有>無		有>無	有>無			
	人類の文化・社会と自然に関する知識	男性>女性		自学以外>自宅				有>無			
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識				有>無						
	自律・自立した学習を続けていく知識										
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる										
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる				有>無			有>無			
	レポートを作成することができる										
	表やグラフを用いることができる								有>無		有>無
	ICTを用いて情報収集ができる										有>無
	ICTを用いて過程や成果を表現できる							有>無	有>無		有>無
多角的かつ論理的に分析できる	男性>女性									有>無	
態度・志向性	自らを律して行動できる			自学以外>自宅							
	他者と協調・協働して行動できる				有>無						
	良心と社会の規範にしたがって行動できる		推薦>一般	自学以外>自宅							
	社会の一員として、積極的に関与できる			自学以外>自宅				有>無			
	キャリア形成に取り組むことができる			自学以外>自宅							
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	男性>女性			有>無			有>無			
	問題の発見を楽しんだりできる	男性>女性			有>無						
	問題について解決へ導くことができる	男性>女性						有>無	有>無		
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる										
	教員・友人と意欲的に関わることができる				有>無			有>無			

## 5. 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表5の通りであった。

どの施設・設備においても、「利用なし」の者は、「ときどき」「たまに」利用する者よりも、達成度や意欲の伸びが低いという結果となった。

特に「ピア・メンター」「web テキスト」については、ほぼすべての項目で上記のような差異が見られた。これらの設備は特にリエゾンゼミ I と関係の深いものであり、これら資源を積極的・効果的に用いてリエゾンゼミ I を進めることの効果・重要性が示されたといえる。なお「ピア・メンター」については、「頻繁に利用した者」とそうではなかった者に差が見られている。また、「UNIPA を用いたクラス・プロファイル」もこれらと同様の傾向を見せた。この設備はリエゾンゼミ I のみに関わるものではなく、他の講義・演習においても同様の効果を及ぼすことが期待されるだろう。

図書館は自律的学習・意欲と関係が深かった。美術工芸館が汎用的技能の諸項目と関わりを見せたのは、美術工芸館見学に引き続き行われる見学レポート作成が影響しているのではと想定される。元気点検表は PC を用いた回答方式、web での自己分析が特に自律的学習と ICT 項目と関連した要因であると思われる。また、コミュニケーション・タイムの利用は教員と学生との関わりからの「協調的態度」の育成に、キャリア・セ

ンターの利用は「社会の分析」に大きく寄与していると思われる。

もちろん、(施設・設備以外の要因により) 学士力・意欲が向上したことによってこれらの施設・設備をより活用するようになるという、これまでの記述とは逆の影響関係も想定されるわけであるが、この点を踏まえても諸施設・設備と学士力・意欲には一定の肯定的な関係があることが示されたといえるだろう。

**表5 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び**

		図書館	美術工芸館	キャリアアセン	室生支援センター	保健室・学生相談	コミュニケーション・センター	イスユル・ニプロのフアラ	ピアメン	Webテキスト	元気点検票
知識・技能	多文化・異文化に関する知識の理解	頻繁に>たまに	たまに>なし	たまに>なし	ときどき>なし	ときどき>なし	頻繁に>なし	頻繁に>たまに、なし		ときどき>たまに>なし	ときどき、たまに>なし
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解			ときどき>なし	ときどき>なし	たまに>なし		頻繁に>ときどき、なし		ときどき>たまに、なし	ときどき>なし
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		たまに>なし		ときどき>たまに、なし			頻繁に>たまに、なし	頻繁に>ときどき	ときどき>なし	
	自律・自立した学習を続けていく知識	頻繁に>たまに		ときどき>なし	ときどき>なし	たまに>なし	頻繁に>ときどき、たまに、なし	頻繁に>ときどき、たまに、なし		ときどき、たまに>なし	たまに>なし
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる				たまに>なし			頻繁に>ときどき		ときどき>なし	たまに>なし
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる				たまに>なし			頻繁に>ときどき、たまに、なし		ときどき>なし	たまに>なし
	レポートを作成することができる		たまに>ときどき					頻繁に>なし	頻繁に>ときどき、たまに、なし	ときどき>なし	
	表やグラフを用いることができる								頻繁に>ときどき、たまに、なし	ときどき>たまに>なし	
	ITを用いて情報収集ができる		たまに>なし		たまに>なし				頻繁に>なし、ときどき	ときどき>なし	たまに>なし
	ITを用いて過程や成果を表現できる							頻繁に>たまに、なし	頻繁に>ときどき、たまに、なし	ときどき、たまに>なし	たまに>なし
	多角的かつ論理的に分析できる		たまに>なし	たまに>なし	ときどき>なし				頻繁に>ときどき、たまに、なし	ときどき>たまに、なし	ときどき>なし
態度・志向性	自らを律して行動できる							頻繁に>たまに、なし	頻繁に>たまに、なし	ときどき>たまに、なし	
	他者と協調・協働して行動できる						たまに>なし	頻繁に>たまに、なし		ときどき>たまに>なし	
	良心と社会の規範にしたがって行動できる				たまに>なし				頻繁に>ときどき	ときどき>なし	
	社会の一員として、積極的に関与できる				たまに>なし			頻繁に>なし	頻繁に>たまに、ときどき、なし	ときどき、たまに>なし	
	キャリア形成に取り組むことができる				たまに>なし			頻繁に>なし	頻繁に>たまに、なし	ときどき>なし	
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる			ときどき、たまに>なし	ときどき、たまに>なし		頻繁に>なし	頻繁に>なし	頻繁に>なし、ときどき	ときどき>たまに、なし	ときどき>たまに、なし
	問題の発見を楽しんだりできる	頻繁に>たまに			たまに>なし			頻繁に>ときどき、たまに、なし	頻繁に>ときどき、たまに、なし	ときどき>たまに、なし	ときどき>なし
	問題について解決へ導くことができる	頻繁に>たまに		たまに>なし				頻繁に>たまに、なし	頻繁に>たまに、なし	ときどき>なし	
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	頻繁に、ときどき>たまに						頻繁に、ときどき>なし	頻繁に>たまに、なし	ときどき>たまに>なし	
	教員・友人と意欲的に関わることができる	頻繁に>たまに						頻繁に>たまに、なし	頻繁に>たまに、なし	ときどき>たまに>なし	ときどき>なし
	工芸館、キャリアセンター、保健室、Webテキスト、天気点検票は			ときどき	頻繁に(を含む)、	たまに、なし	に再分類				
	他は 頻繁に、ときどき、たまに、利用なし										

## 【資料1 学士力達成度・意欲の伸びの項目】

### (1) 知識・理解

- 1) 入学時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識の理解ができた
- 2) 入学時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 入学時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を学んだ
- 4) 入学時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

### (2) 汎用的技能

- 5) 入学時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 入学時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 入学時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 入学時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 入学時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 入学時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 入学時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

### (3) 態度・志向性

- 12) 入学時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 入学時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 入学時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 入学時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 入学時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

### (4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 入学時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざま知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 入学時に比べ、社会を広く見わたし疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 入学時に比べ、発見した問題について情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

### (5) 意欲

- 20) 入学時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった
- 21) 入学時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるできるようになった